平成 25 年 9 月の解説 (週間天気予報)

【9月の天候状況】

上旬は、秋雨前線が本州付近に停滞し、沖縄・奄美を除いて全国的に曇りや雨の日が多くなりました。日本の南東海上で勢力を強めた太平洋高気圧の縁をまわって湿った空気が流れ込んだほか、九州に上陸した台風第 17 号の影響も加わり、1~4 日は、西日本の各地で大雨となりました。また、2 日に埼玉県で、4 日には栃木県で竜巻が発生しました。沖縄・奄美では、1~3 日に台風第 17 号の影響で雨が降りましたが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続きました。旬平均気温は、西日本でかなり低くなりました。旬降水量は、東日本日本海側と西日本ではかなり多くなりました。

中旬は、旬のはじめと終わりは高気圧に覆われて全国的に晴れとなった日もありましたが、15~16 日は、東海地方に上陸して三陸沖に抜けた台風第 18 号とその北側に停滞していた秋雨前線の影響を受け、北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨となりました。福井県、滋賀県、京都府では記録的な 48 時間降水量となって大雨特別警報が発表され、北日本から西日本の各地で河川の氾濫や土砂崩れなどの災害が発生しました。また、この台風に伴い、和歌山県から北海道に至る 7 道県で竜巻等の突風が計 12 個発生しました。旬平均気温は、沖縄・奄美では 1961 年以降で最も高くなりました。旬降水量は、北日本日本海側ではかなり多くなりました。

下旬は、東・西日本では、高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。一方、南からの湿った気流の影響で太平洋側では雨の日もあり、関東地方では台風第 20 号が南海上を北東進した影響で、24~26 日は曇りや雨となりました。北海道では、24~25 日に前線の活動が活発となり、まとまった雨となりました。沖縄・奄美では、21 日に台風第 19 号の影響により曇りや雨となりましたが、その後は高気圧に覆われて晴れの日が続きました。旬降水量は、東・西日本でかなり少なくなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高くなりました。月降水量は、東日本日本海側ではかなり多くなりました。月間日照時間は、東・西日本ではかなり多くなり、水戸（茨城県）、甲府（山梨県）、鳥取、姫路（兵庫県）など 8 地点では 9 月の月間日照時間の多い方からの 1 位を更新しました。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3~7 日目の平均）は、全国平均では例年値^(注)より 15 ポイント高い 81%でした。地方毎の適中率は、全国的に例年値よりかなり高くなり、沖縄を除いた各地方で 11~25 ポイント高くなりました。

最高気温（2~7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.5℃小さい 1.9℃となりました。地域毎の予報誤差は、全国的に概ね例年値より小さくなり、北陸・東海・関東甲信・東北地方で 0.5~0.8℃小さくなりました。最低気温（2~7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2℃小さい 1.8℃となりました。地域毎の予報誤差は、全国的に概ね例年値と同程度で、東北地方では 0.5℃小さくなりました。

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

次第に冬型の気圧配置の頻度が増え、日本海側の地方では雨またはみぞれや雪の日が、太平洋側の地方では晴れの日が多くなります。また、冬型の気圧配置では冷たい北よりの風が吹くため、気温が下がりやすくなります。

週間天気予報で雪の降る日や気温が下がる予想が発表されている場合は、雪への備えや健康管理などに注意して下さい。